

製品名: Neuro D ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14601**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	NEUROD1
別名	NEUROD1; BHLHA3; NEUROD; Neurogenic differentiation factor 1; NeuroD; NeuroD1; Class A basic helix-loop-helix protein 3; bHLHa3
遺伝子 ID	4760.0
SwissProt ID	Q13562
免疫原	抗血清はヒト NEUROD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 240-289

背景

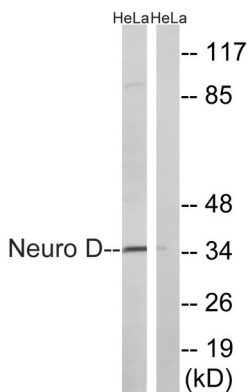
この遺伝子は、NeuroD ファミリーに属する塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) 転写因子をコードしています。このタ

ンパク質は他の bHLH タンパク質とヘテロ二量体を形成し、E ボックスと呼ばれる特定の DNA 配列を含む遺伝子の転写を活性化します。インスリン遺伝子の発現を調節し、この遺伝子の変異は 2 型糖尿病を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：NEUROD1 の欠陥は、若年発症型 6 型糖尿病 (MODY6) [MIM:606394]の原因です。MODY [MIM:606391]は、常染色体優性遺伝、若年成人期発症、およびインスリン分泌の一次性欠陥を特徴とします。、機能：小脳皮質における樹状突起の形態形成と維持に必要な分化因子。転写活性化因子。インスリン遺伝子 E ボックスに結合する。、PTM：リン酸化。膵島細胞では、グルコース刺激により Ser-274 がリン酸化され、核局在に必要となる可能性がある。活性化ニューロンでは Ser-335 がリン酸化され、樹状突起の成長を促進する。、類似性：1 つの塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。、サブユニット：効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。TCF3/E47 とヘテロ二量体を形成する。RREB1 と相互作用する。、

研究分野

若年成人発症糖尿病;

画像データ



Neuro D 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。